

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月24日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720025

研究課題名（和文） 清初以降の清代詩経学における思想的連続性に関する研究

研究課題名（英文） The research of ideological continuity in the study of Shi-Jing in the Qing Period after Early Qing.

## 研究代表者

江尻 徹誠 (EJIRI TETSUJO)

北海道大学・大学院文学研究科・専門研究員

研究者番号：80528232

## 研究成果の概要（和文）：

本研究では清初とそれ以降の詩経学の思想的連続性について考察した。具体的には、陳啓源を代表とする清初の詩経学者たちの研究を分析して、その学術的特色を整理し、あわせて後代の学者の所論を分析し、両者の関連性について考察を加え、そこから清初の詩経学者の所論が肯定的・否定的に継承されながら清代詩経学を形成していったことを確認した。その成果は『陳啓源の詩経学』などの諸研究により報告し、新たな知見を学界に提示し得た。

## 研究成果の概要（英文）：

The research of ideological continuity in the study of Shi-Jing in the Qing Period after Early Qing. This research, specifically focus on the scholars of Shi-Jing in Early Qing Period (Chen qi-yuan represent them), to analyze the study of them, and to organize its academic features. Next, scholars of the future generations from them, we analyzed the theory. And, we considered the relationship between the two. Finally it checked about the following points: The scholars of Shi-Jing in Early Qing Period, their thought had been inherited in a positive light on the one hand, and that had been inherited in a negative light on the other. And this both parties began to form the study of Shi-Jing in the Qing Dynasty. The result is reported by studies such as "Chen Qi-Yuan's science of Shi-Jing", presented to the academic community to obtain new knowledge.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：清代思想史・詩経解釈史・詩経学

## 1. 研究開始当初の背景

『詩経』に関しては、日本・中国・韓国それぞれに詩経学会が存在し、学術雑誌の発刊や国際研討会を通じて、活発な学術交流が行われていた。しかし、本研究の対象である清代詩経学に関して先行研究を整理したところ、その研究動向としては主に清代中期の乾隆・嘉慶年間、いわゆる乾嘉期の詩経学ばかりが注目・研究されていた。

清初詩経学は、陳啓源『毛詩稽古編』三十卷や朱鶴齡『詩経通義』十二巻の大著があり、赤塚忠氏『詩経研究』でその重要性も早くから指摘されていたが、村山吉廣氏による姚際恒などの研究を除けば、国内外ともに当該時期の研究は滞っていた。

そこで研究代表者が陳啓源『毛詩稽古編』を試みに通読したところ、以降の清代詩経学の諸成果につながる先駆的学説が幾つか検知でき、また、清初以降の『詩経』研究書に、陳啓源の学説の影響が確認できたため、研究代表者は清代詩経学の思想的連続性とその学術的価値について着想するに至った。

## 2. 研究の目的

本研究の研究目的は、これまで解明されていない清初から清末に到る詩経学における思想史上の動線を明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

以下の三段階の検証を経て、研究目的を達成する。

(1) 陳啓源『毛詩稽古編』及び朱鶴齡『詩経通義』に代表される、清初詩経学の諸学者が提示した『詩経』に関する種々の著作と学説を整理し、その特色を明らかにする。

(2) 前項で確認した清初詩経学における諸学説とその特色に留意して、清初以降の詩経学者と『詩経』研究書に検討を加え、清初詩経学の学術的成果がどのように引き継がれているか、その経路と展開を明らかにする。

(3) 前項で明らかにした清代詩経学が持つ思想的連続性が、清代の学界に与えた影響について、特に清朝乾嘉期以降の諸文献を分析し、検討を加える。

## 4. 研究成果

(1) 初年度からの主な研究成果：  
以下の通り提示する。

① 清初を代表する詩経学者である陳啓源の詩序論および「小学」に関する学説の時代的意義と乾嘉期への継承過程の解明。

② 『毛詩稽古編』諸テキストの校訂：『四庫全書』所収本、嘉慶十八年刊本、『皇清經解』所収本及び張敦仁校訂手抄本の校訂。

③ 朱鶴齡と陳啓源の詩経学の比較および清初詩経学の時代的意義の検討。

④ 顧炎武及び閻若璩ら、清初の諸学者の詩経学についての考察。

⑤ 惠棟・王昶・錢大昕・翁方綱・陳奂・胡承珙・戴震ら、乾嘉期を代表する学者たちの詩経学の検討、および彼らの著作からの、清初詩経学に対する評価の収集。

⑥ 本研究の実行段階で整理・収集した、清初以降の諸学者の清初詩経学に対する態度についての考察。清初詩経学と乾嘉期以降の詩経学における思想的連続性の解明、および清初詩経学の学術的価値の再確認。

全体として、清初諸学者の詩経学および乾嘉期諸学者の詩経学に対する考察まで含めて作業は比較的順調に進行した。研究計画初年度の段階で、陳啓源の研究を中心に論を進めた結果として、本研究における達成目的のひとつ「清初詩経学における諸学説とその特色に留意して、清初以降の詩経学者と『詩経』研究書に検討を加え、清初詩経学の学術的成果がどのように引き継がれているか、その経路と展開を明らかにする。」をほぼ達成し得た。その成果の一端は、二度の国際学会での発表

および論文による報告に顕著であるが、これら一連の研究は、最終的には単著『陳啓源の詩経学・『毛詩稽古編』研究』として結実した。概書は陳啓源の詩経学を解明するとともに、清初以降の詩経学の展開に関して、これまで未解明であった詩序論の継承にまつわる諸事情に着眼して研究を進めた点に独創性を有し、関連する学界の発展に寄与し得たと愚考する。

また先掲③～⑥に関連して学術発表「清初詩経学における詩序論」および「清朝中期詩経学に関する試論」を行った。これら二回の発表を通して得られた結論を概括すると、以下の通りである：清初詩経学に確かな学術的価値を認めた後代の学者達は、自らの詩経研究に際しては、清初詩経学の学術成果をはっきりと継承していた。また同じく後代、清初詩経学者達が見せた研究成果に関して思想的見地から対立する学者達が存在し、清初詩経学の成果を否定すべく議論を進めていたことが明らかとなった。こうした学者による批判を分析することによって、いわば逆説的に清初詩経学の影響力を認識することが出来た。また、この学術的対立構造から、清代詩経学が持つ人的構造の一端を解明し得た。

今後の課題としては、本研究で論及し尽くせなかった清朝の諸学者の詩経学に関連する学説について、継続して考察を加えることと、先掲②に関して所謂善本と呼ばれる稀覯書を調査することが挙げられる。②については、現在に至るまで、諸外国に残存する善本調査の作業を継続中であるため、調査が終了次第その成果を発表したい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(1) [雑誌論文] (計3件、うち主要なもの2件)

### ① 江尻 徹誠

「『毛詩稽古編』研究－從成書到流布－」  
『當代經典詮釋多元整合教學研討會會議論文集』、當代經典詮釋多元整合學程研究計畫、査読有、巻数無 (p123-p147、2009年6月発行)

### ② 江尻 徹誠

「『毛詩稽古編』嘉慶刊本の上梓與其影響－費雲倬〈毛詩稽古編附攷〉的意圖一」  
『元明清文化與文學國際研討會會議論文』、佛光大學、査読有、巻数無 (p1-p16、2009年4月発行)

(2) [学会発表] (計5件、うち主要なもの4件)

### ① 江尻 徹誠

「清朝中期詩経学に関する試論」  
旭川大学 (北海道)、専門学術報告会、2011年8月4日

### ② 江尻 徹誠

「清初詩経学における詩序論」  
旭川大学 (北海道)、専門学術報告会、2011年6月30日

### ③ 江尻 徹誠

「『毛詩稽古編』研究－從成書到流布－」  
台湾大学 (台湾)、當代經典詮釋多元整合教學研討會、2009年6月26日

### ④ 江尻 徹誠

「『毛詩稽古編』嘉慶刊本の上梓與其影響－費雲倬〈毛詩稽古編附攷〉的意圖一」  
佛光大學 (台湾)、元明清文化與文學國際研討會、2009年4月23日

(3) [図書] (計1件)

①江尻 徹誠

『陳啓源の詩経学—『毛詩稽古編』研究—』(著書・単著)

北海道大学出版会、北海道大学大学院  
文学研究科研究叢書 (p1-p206、2010年  
3月発行)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江尻 徹誠 (EJIRI TETSUJO)

北海道大学・大学院文学研究科・専  
門研究員

研究者番号：80528232

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし